

滝沢しんいち議員の一般質問 (12月7日) 主な質問と答弁



北部市民プールを廃止・解体し、皐月保育園を移転する問題について

滝沢議員 住自協の要望書や署名に寄せられた「プール残して」の地域世論を示し、存続を求める

こども未来部長 皐月保育園の移転先をプールには「こだわらない」と、事実上のプール存続を表明

滝沢議員は初質問の第一に、近隣の保育園や若槻養護学校、長野養護学校が授業で使用し、地域住民にも愛用されている地元の市営北部市民プール（上野2丁目）を廃止・解体し、跡地に皐月保育園を移転する計画についてとりあげました。若槻地区住民自治協議会が反対の要望書を提出し、地元「北部市民プールの存続を求める会」ができ、2千筆を超える署名が集まるなど、「プールを残してほしい」という地元の思いを代弁し、「住民の声を聞いたうえでの見解はどうか」と質問。こども未来部長から「北部市民プールへの移転にはこだわらず、皐月保育園の移転先を検討していく」と、事実上、北部市民プールの存続を認める答弁を引き出しました。

滝沢議員 昭和の森公園周辺の道路の抜本的な安全策を講じ、保育園移転先は子どもの安全第一に検討を

滝沢議員は、「昭和の森公園付近の道路の安全性には不安が強いが、住自協の要望書にも明確な回答が示されていない。桜並木の伐採も懸念されている」として、市の対策や見解を求めました。こども未来部長は、道路の安全対策について、「より安全な場所から園に出入りできる移転先を検討。プール以外の昭和の森公園内に移転する場合には、危険性は一定程度軽減できると考える」など保育園移転との関連で答弁。滝沢議員は、「地元から指摘されているのは、昭和の森公園へ向かう坂道自体の危険です」と抜本的な安全対策の必要性を強調。市が新保育園にイメージする「ふれあい保育」や「生活力・体力向上保育」は昭和の森にこだわらなくても可能であり、市民の声にこたえ安全第一に移転先の再検討を求めました。こども未来部長は、「移転は昭和の森公園を最優先」と固執した答弁でした。

皐月保育園の認定こども園化で公的責任をあいまいにすることは許されない

今回の皐月保育園の移転計画は、県下で初めて公立保育園を「認定こども園」に変える計画と一体になっています。認定こども園では児童福祉法第24条1項が適用されず、24条2項による園と保護者との直接契約になります。

滝沢議員は、これらの問題をあげて、「個々の園の都合で入園を断ることも法律上は可能。公立であっても市の責任は非常にあいまいになることが懸念される」と指摘。長野市が公立保育園の民営化を進めているなかで、民営化された保育園の認定こども園化による保育の市場化を市が国と一緒に推進する危険性にもふれて、「公的保育の責任をしっかりと果たしていく」よう強く求めました。こども未来部長は、「今後も公立施設としての責任、役割をしっかりと果たしていく」と答えました。



消防団員の処遇改善、市民平和の日のつどいについて

滝沢議員 消防団員の処遇改善、全国平均より低い報酬の増額を求める。平和の日のつどいにパネル展を提案。

自らも消防団員として活動している滝沢議員は、高齢化の解消など市としての消防団員確保の施策をただすとともに、国の基準額（年額、団員 36500 円、班長 37000 円）より明らかに低い長野市の年額報酬（団員 18000 円、班長 22000 円）を増額するよう求めました。また、10月に長野市公文書館でおこなわれた戦時下の市民生活を振り返ったパネル展について、来年2月の「市民平和の日のつどい」【2月14日（土）16時～18時半、トイゴ前広場】にあわせて、生涯学習センターなどで市民の目に見える形でおこなうことを提案しました。

「平和の日のつどい」への提案は、総務部長から、「公文書館の展示が好評だったことから、来年2月2日から14日まで、東町門前商家ちよっ蔵おいらい館において、同様の展示会を開催予定。平和の日のつどいは、ちよっ蔵おいらい館の展示とも連携しながら、多くのみなさまにご覧いただけるよう工夫してまいります」と前向きな答えがありました。